

# 国語 第4学年 漢字の広場1

## 自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

————ここから直す対象の学習指導案————

### 第4学年 国語科学習指導案

1 単元名「漢字の広場1」 教材名「漢字の広場1」

2 単元の目標

第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。〔知識及び技能〕(1)エ)

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(B(1)エ)

既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)エ)

〔思考・判断・表現〕①「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)

〔主体的に学習に取り組む態度〕①既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確認めながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。この教材では、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。想定する難しさは、何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

第1次 第1時：○誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。評価：学習状況を見て支援する。

第2次 第2時（本時）：○教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認め、字形・読み・文中の意味を見直す。既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。評価：思①（発言・活動中の記録・作成物）

## 6 本時の指導（2／2）

### （1）本時の目標

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（B(1)エ）

### （2）学習過程

#### 【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。

○「同じ場面について書いた文は、どこでまとまっていますか」

【めあて】既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。

予想される児童の反応：・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

#### 【展開】

学習活動：○「同じ場面について書いた文は、どこでまとまっていますか」

教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認め、字形・読み・文中の意味を見直す。既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。

読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。

予想される児童の反応：・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。

・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。

指導上の留意点：誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。

想定する難しさ：何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。

評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：思① 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。（発言・活動中の記録・作成物）

#### 【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。

予想される児童の反応：・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態①（最初と最後の記録、見直しの理由）

### （3）板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ場面について書いた文は、どこでまとまっていますか」。中央は、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie\_ai\_katsuyo)  
[https://www.threads.com/@mie\\_ai\\_katsuyo](https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo)

LINEオープンチャット  
みえ先生ラボ

